



## VOICE 本州最北端で地域医療・僻地を知る

小澤 真結（2年、茨城県）

## これからの目標

大学生という特別で自由な時間を、将来のために大切に使いたいです。医学の勉強はもちろん頑張りますが、「医療に関係ないことでも、ワクワクすることや興味のあることになんでも挑戦すること！」です。

## どうしてその実習先を選んだのか？

## 経験のない新しい環境があった

私は具体的にどんな地域で、何科の専門医として働くかはまだ決められていません。だからこそ、学生の間にはできるだけたくさんを経験して、それを踏まえて決めていきたいと思っています。青森県の最北端に位置する大間病院では僻地医療を体験できると考えて、ここを選びました。他にも、地域医療入門の授業で講義をして下さった安齋先生とお話したかった、大間マグロに興味があったということも理由です。

## 実習先の良かったところは？

## 僻地の医師像を想像しやすくなった

患者さんを診るための医学的知識は全く足りていませんが、先生方や病院スタッフの方が優しく歓迎して下さいのおかげで、遠慮なく疑問を全て先生方に聞くことができました。また、お食事にご一緒させていただいた際には、キャリア相談をしたり、大間で働く医師のライフスタイルなども知ることができ、僻地で医師として働く想像をしやすくなりました。「街見学」と称して病院外にも連れ出して下さって、街並みや住民の生活、原産や産業を見学することもできました。



## 実習の流れ

## 大間病院の実習スケジュール

## 総合診療科研修



## 午前

## 病棟回診・外来の見学

- ◆ 病棟回診
- ◆ 外来見学
- ◆ 内視鏡検査の見学
- ◆ 超音波検査の体験

検査技師といった専門家がこれらの検査を行うと思っていたので、これを医師も行うことを知り、仕事の幅に驚かされました。

車で原産や大間牛、漁港などを案内してもらいました。地域を知ることができました。

## 午後

## 訪問診療・街の見学

- ◆ 訪問診療（看取りの見学）
- ◆ 集団予防接種
- ◆ 急患対応
- ◆ 特別養護老人ホーム見学
- ◆ 街の見学
- ◆ 写真見せ

特養で入居者とお話をした時、突然泣き出してしまいました。とても不安になりましたが、先生から普段と違うこと（実習生が居ること）によって起こる心理的なものによるのだと教えてもらいました。医学を勉強すればこのようなことまで理解できて、適切な接し方や支え方がわかるのだと知り、勉強の意欲が高まりました。

気管切開や胃ろうを行っている患者が多く、その背景には「全部できることをやってこそ、孝行」というイメージが下北地域にあるということを知りました。

# Q & A

## 実習参加者の声

### Q1. どのような医師になりたいですか？

まだ具体的な診療科は決まっていますが、かかりつけ医やプライマリケアなど患者さんとの距離が近い医療に携わりたいと思っています。公衆衛生や海外にも興味があります。

### Q2. 最初に立てた目標は？

大間病院について知ることと、わからないことをきちんと質問することです。また、クリクラの雰囲気も掴めたら良いなと思っていました。

### Q3. 大間病院までのアクセスは？

電車で下北駅まで行きました。県へ応募する際に土地勘がなく不安だと相談したところ、タイミングも合ったこともあって病院の方が車で下北駅まで送迎してくださいました。当日出発では厳しかったので、前泊・後泊させてもらいました。

### Q4. 実習に向けて準備したことは？

大間病院の先生方の名前を覚えて行きました。また、地域医療入門の配布資料を復習しました。

### Q5. 宿泊場所はどんなところですか？

初期研修医の先生方が宿泊するためのアパートに泊らせてもらいました。素泊まりできるくらい、調理器具や家電・洗濯用洗剤などが揃っていました。

### Q6. 食事はどうしましたか？

朝食、昼食はスーパーや病院で購入しました。夕食はタイミングが合ったこともあって先生方にごちそうになりました。先生方とキャリアやプライベートなお話をさせてもらった貴重な機会でした。食事も美味しいものばかりでした。

### Q7. 食費はどれくらいかかりましたか？

1日あたり500円ほどでした。

### Q8. 持ち物は？

ケーシー、白い靴、名札を持参しました。メモ帳と鉛筆も持って行きました。

### Q9. 衣類以外の持ち物は？

バスタオルやアメニティ類、充電器を持っていくと良いと思います。

